読む

水族館

館長　小林龍二

竹島水族館
☎68◆2059

伝える仕事

■先生たちに講演

宝くじに当たるような運とイケメンな館長率いる逆境と劣等感を武器に知恵と工夫で働くスタッフのおかげで竹島水族館は危機的状況を脱出し人気を取り戻したのですが、そんな話がぜひ聞きたいと先日お話をいただきました。依頼主は学校の先生の総会です。よせばいいのにホイホイと引き受けて行ってきました。

これまで生きてきた立場上、学校の先生というのはこちらが何かを話すのではなく、話して教えていただく方がお互い安心で平和に解決できます。場合によっては怒られたり、度が過ぎるとゲンコツを食らった経緯があるのですが、今回はこちらが話す立場。何だか気が引けます。しかし、おい先生たちよ今日は良い話をしてやるからな、よく聞きたまえよ、居眠りしたら廊下に立たせるぞ。というこんな機会滅多にない優位な姿勢でのぞめる。気が引けていては良い話はできなさそうなので、後者の姿勢で話をしました。

■できれば魚が話してほしい

話すと言っても、その内容は普段関わっている魚やアシカたちが教えてくれたことをそのまま代弁して話すだけなので自分が先生より優位でもエライわけでも何でもないのですが、水族館からはさまざまなことが学べるのでそういったエピソードを話します。もともと人と話すのが苦手で、魚とは話さなくてもいいので好都合な水族館の仕事に就いたようなものなので、まさか自分が人前で話す日が来るとは思ってもいませんでした。実はほとんどの水族館、動物園のスタッフは同じ気持ちや性格です。生き物が直接講演をして教えてくれればいいのですが魚とは話すことはできないのでそこが難点。もし魚が話せるのであれば直接先生たちに話をして欲しい。

■変化してきた飼育員の仕事

昔は無精ヒゲでも髪の毛に寝癖があっても黙って展示裏でにこやかに魚をみていれば仕事が済みましたが、今の水族館は積極的にお客さんの前に出て解説やショーをする体制となっています。そのため内気なお魚大好き青年には働く上でやや都合が悪い施設となっています。身なりもきちんとして、ヒゲも毎日剃ります。（これは社会人として当たり前ですが）

飼育員は話ができない生き物たちの気持ちや、普段の仕事の中で生き物たちから教わることや気がついたことを代弁してお客さんに伝える仕事を担っています。「飼育」員なので飼育は大前提で大事な仕事ですが、翻訳して伝えることも同じく大事なことなのです。

めくるくん

図書館 めくるくん通信

図書館 ☎69◆3706

図書館のこぼれ話 ～ブックスタート～

赤ちゃんの４カ月健診の際、絵本の読み聞かせを行い、ブックスタートパックをプレゼントしています。中には絵本が２冊。赤ちゃんと一緒に楽しいひとときを過ごしてくださいね。

図書館に入った本

毎月たくさんの本やCDが入るよ!
一部を紹介するね♪

めくるくんオススメ

『おたからサザエさん１』
長谷川　町子／著
朝日新聞出版

長谷川町子生誕100年記念！新聞でしか見られなかった、単行本未収録漫画を集成。

小説

『オリンピックへ行こう！』
真保　裕一／著　講談社

『豆腐の角に頭ぶつけて死んでしまえ事件』
倉知　淳／著　実業之日本社

家庭生活

『わたしたちの「台所」』
わたしたちの編集部／編集　マイナビ出版

『100歳までお金に苦労しない定年夫婦になる！』
井戸　美枝／著　集英社

ペット

『どんな災害でもネコといっしょ』
徳田　竜之介／著　小学館クリエイティブ

デイジー図書

『井伊直虎と戦国の女傑たち 70人の数奇な人生』
渡邊　大門／著

※デイジー図書は、本を読むのが困難な方のための録音図書です。☆図書館製作

貸出中の場合もありますので、本が見当たらない時はお気軽に職員にお尋ねください。